

入社、現在技術部分析課長として活躍しており、特に學術の研究に対して真摯な態度で当っている。東都製鋼入社以来は終始一貫して鉄鋼の分析関係の業務に従事し、現場の日常分析作業の合理的改良を行ない、その基礎を確立すると共に幾多の優れた研究論文を発表している。君の発表した鉄鋼および塩基性鋼滓の定量方法は学振法

または JIS 法として採用されたものが多い。

これらの研究はすべて東都製鋼入社以来の比較的短期間に行なわれたもので、君の分析方面に対する才能を示すと共に、わが国鉄鋼技術の改良発達に寄与するところ多大である。よつて君は表彰規定第8条の規定により渡辺義介記念賞を受ける資格十分であると認める。

昭和34年度 (昭和34年3月1日から昭和34年2月29日まで) 事業報告および会計報告

事業報告

I. 会 議

本会運営上の会議を次の通り開催した。

1. 総 会

第 44 回通常総会 34年4月2日開催

議事

- (1) 理事、監事および評議員選挙 (当選者決定)
- (2) 昭和33年度事業報告、収支決算並びに財産目録の件 (承認可決)
- (3) 昭和34年度事業計画並びに収支予算の件 (承認可決)

2. 評議員会

第 1 回評議員会 35年2月23日開催

- 議事 (1) 次期理事、監事、評議員候補者推薦の件 (候補者推薦決定)
- (2) 昭和34年度事業報告、収支決算並びに財産目録の件 (承認可決)
 - (3) 昭和35年度事業計画並びに収支予算の件 (承認可決)

3. 理事会

34年3月19日、4月3日、4月14日、5月12日、6月9日、7月14日、9月8日、10月13日、11月10日、12月8日、35年1月12日、2月23日の 12 回開催し、毎月の事務並びに会計事項、会員の入退会その他一般会

務を協議決定した。

4. 編集委員会

34年3月24日、4月21日、5月26日、6月23～24日、7月28日、8月26日、9月29日、10月27日、11月24日、12月22日、35年1月14日、2月29日の 12 回開催し、会誌の編集方針、企画、掲載論文の選定、技術資料の蒐集その他会誌編集に関する一切の事項を協議処理した。

5. 企画委員会

34年4月28日、5月19日、6月16日、7月21日、10月20日、12月16日、35年1月19日の 7 回開催し、事業運営上の諸企画につき審議立案した。

6. 支部長会議

34年4月4日開催、本部の事業計画の説明並びに各支部の事業状況の報告があり、協会発展に関する件、本部支部間連繫に関する事項などにつき協議した。

II. 会 員

本年度において次の通り会員の異動があつた。

III. 役員および常置委員

本年度において下表の通り役員および常置委員の異動があつた。

1. 理 事

34年4月2日開催の第 44 回通常総会において任期満

異動	会 員 別	名 誉 会 員	賛 助 会 員	維 持 会 員		正会員	学 生 会 員	外 国 会 員	合 計	会員団体 組 織 数
				員 数	口 数					
昭和34年3月1日現在		19	38	社 175	口 898	5,735	268	29	6,264	80
入 会		+ 1		+ 8	+ 9	+ 364	+ 146	+ 4	+ 523	
退 会			- 4	- 3	- 12	- 151	- 16	- 2	- 176	
死 去		- 1	- 1			- 11			- 13	
転 格		+ 1				+ 86 - 1	- 86			
復 活						+ 2			+ 2	
昭和35年2月29日現在		20	33	180	口 895	6,024	312	31	6,600	82

了の理事の改選を行ない、次の通り当選就任した。

伊木 常世 入 一二 遠藤勝治郎 桑田 賢二
作井 誠太 芝崎 邦夫 相山 正孝 的場 幸雄

同日開催の理事会において互選により次の通り当選就任した。 副会長 的場幸雄

2. 監事

34年4月2日開催の第44回通常総会において任期満了の監事の改選を行ない、次の通り当選就任した。

俵 信次

3. 評議員

34年4月2日開催の第44回通常総会において任期満了の評議員の改選および欠員の補欠選挙を行ない、次の通り当選就任した。

足立 彰	浅田 譲	伊東 寛治	伊藤 正夫
井上 友喜	井村 竹市	池ヶ谷頼緒	石田 稔
上野建二郎	大河原正太郎	大谷米太郎	大原 久之
大森 甚一	大矢根大器治	岡田 儀一	岡村 武
香春三樹次	嘉村 平八	金田 義夫	川手 寿夫
川端 駿吾	河上 益夫	木村富士信	菊池 浩介
絹川武良司	葛 誠四郎	小柴 定雄	小島 義正
幸田 成康	佐々川 清	佐藤 忠雄	佐藤 知雄
斎藤 省三	斎藤 弥平	酒井 佐敏	里井孝三郎
里村 伸二	志賀 芳雄	島村 哲夫	瀬尾喜代三
田畑 農夫	多賀谷正義	高石 義雄	滝沢 工
谷川 正夫	外島 健吉	富山英太郎	丹羽貴知蔵
西村 秀雄	錦織 清治	橋口 隆吉	蜂谷 茂雄
浜田 正信	平岡 正哉	広田 寿一	平世 将一
藤井 寛	藤田 俊三	増本 量	町永 三郎
松本兼二郎	松本 義一	宮下格之助	村尾時之助
村田 巖	室井嘉治馬	望月 要	森崎 晟
森田恵三郎	森田 志郎	安田 勇治	山内 二郎
山田 熊男	山田良之助	山野上重喜	
小野田武夫(補欠)	藤本俊三(補欠)		

34年3月22日評議員川上義弘死去、同12月12日評議員福島政治死去。

4. 常置委員

34年4月18日附森永孝三の常務委員を解き、佐藤忠雄、松下幸雄、松本豊、前田元三を常務委員に委嘱した。

34年6月10日付浅田譲の常務委員を解き、平世将一、小野田武夫を常務委員に委嘱した。

5. 編集委員

34年4月18日付松下幸雄の編集委員を解嘱した。

6. 企画委員

34年6月12日付伊藤博の企画委員を解き、久芳正義、野村純一を企画委員に委嘱した。

IV. 一 般 事 業

本年度における事業の概要は次の通りであつた。

1. 会 誌

「鉄と鋼」第45年第3号から第46年第2号まで12冊(うち3月号および9月号は講演前刷)を発行した。

2. 刊行物

Tetsu-to-Hagané Abstracts.

No.7 (1957年) および No.8 (1958) は発行済。

No.9 (1959年) は発行準備中。

Japan Science Review, Mining and Metallurgy
(日本鉱業会その他6学会と共同編集)

Vol. I, No.2 を発行した。

鉄鋼技術共同研究会報(鉄鋼技術共同研究会)

第12号、第13号、第14号、第15号

3. 鉄鋼技術講座の編集

「使用者のための鉄鋼技術講座」編集の目的をもつて32年7月に編集委員会を設け、鋭意編集の事業に当つたが、準備完了して7月に第1巻を、その後引続き第4巻まで完成発行し、目下第5巻、第6巻の刊行を進めている。

第1巻 製鉄製鋼法

第2巻 鋼材製造法

第3巻 鋼材の性質と試験

第4巻 鋼材加工法

第5巻 鋳鉄の性質と加工

第6巻 鋁および鋼材の規格と解説

4. 鉄鋼便覧の改編

鉄鋼便覧はすでに改編4版を重ねたが、さらに新事態に應ずるため改編に着手することとなり、33年7月改編委員会を設置、着々刊行の準備を進めている。

5. 俵先生記念出版委員会

前会長俵国一先生の功績を記念するため、記念出版を行なうことを決定、34年2月記念出版委員会を設け、その事業に当ることとなつたが、関係者172氏よりの寄稿を得てこれを編集、「俵国一先生を偲ぶ」と題して7月に刊行、寄稿者並びに関係方面に頒布した。

6. 原子力研究委員会

原子力工業の発展に対応する鉄鋼生産技術の育成に必要な調査研究を行なうことを目的として32年7月に設置された本委員会は、爾後度々会合を開いて調査研究を行ない、またその内に文献専門委員会を設けて関係文献の蒐集頒布に努めている。

7. 鉄鋼技術共同研究会

鉄鋼技術共同研究会(通産省重工業局、日本鉄鋼連盟および本会の三者共同組織)は、製鉄、製鋼、鋼材、特殊鋼、熱経済技術、品質管理、調査、新技術開発(直接還元法分科会、真空冶金分科会を含む)の8部会に分れ各部会はまたそれぞれ分科会に分れて研究事項を分担、引続き活発な調査研究を行なっているが、本年度においては更に一層その事業活動を推進した。

8. 講演会、見学会および座談会

(1) 春季講演大会および見学会

34年4月1日から3日まで3日間東京大学工学部において開催、研究発表講演109、特別講演5

4月4日、日本金属学会と共同で9班に分れ、金属材料技術研究所ほか18箇所の工場、研究所などの見学を行なつた。

(2) 秋季講演大会および見学会

34年11月3日から5日まで3日間大阪大学工学部において開催、研究発表講演130。

11月6日、日本金属学会と共同で11班に分れ、大阪府立工業奨励館ほか24箇所の工場、研究所などの見学を行なつた。

(3) 特別講演会

34年4月2日東京大学工学部において、服部賞ほか各賞受領者の特別講演会を開催。

講演 高温高压用特殊鋼管の製造と品質

渡辺三郎賞受領者 原田 芳 君
特殊鋼の焼戻過程における炭化物の挙動

俵賞受領者 佐藤知雄 君
日本鋼管川崎製鉄所の合理化について

服部賞受領者 滝沢 工 君
鋳鉄管製造技術について

香村賞受領者 田中勘七 君
明治末年のわが鉄鋼業の思い出

渡辺義介賞受領者 浅田長平 君

34年5月18日東京都日本生産性本部ホールにおいて開催。

講演 研究とその開発

ユーエス・スチール会社技術担当副社長

ジェームス・ビー・オースチン博士

34年10月12日東京都日本消防会館会議室において、日仏工業技術会、日本鉄鋼連盟、日本金属学会と共同にて開催。

講演 フランス鉄鋼業と IRSID.

フランス鉄鋼研究所長 エム・アラール博士

34年10月22日東京都ブリッジストンビル・ホールにおいて開催。

講演 電気弧光炉用誘導攪拌装置について

スウェーデン A S E A 社誘導攪拌装置部長

バーテル・ヘンリク・ハノス氏

34年11月16日東京都ブリッジストンビル・ホールにおいて開催。

講演 最近における特殊鋼の金属学的方向

ドイツ特殊鋼株式会社主任技術者

ヘルベルト・ブリーフス博士

(4) 座談会

35年2月26日東京都丸の内会館において開催。三島博士ほか官界、学界、業界の9氏出席、鉄鋼技術研究体制をテーマとする座談会を開催した。

(5) その他

他学協会との共催にて次の通り開催した。

第9回品質管理大会

第2回自動制御連合講演会

塑性加工講演会およびシンポジウム

第4回金属材料の強度および疲労に関する総合シンポジウム

第1回原子力研究総合発表会

第3回材料試験連合講演会

第1回石炭利用技術会議

9. 表彰

昭和34年4月2日第44回通常総会において表彰式を行ない、鉄鋼技術の功労者に下記の賞を贈り表彰した。

服 部 賞 滝沢 工君

香 村 賞 田中 勘七君

俵 賞 { 佐藤 知雄君, 西沢 泰二君
村井 弘佑君, 大橋 正昭君

渡 辺 三郎 賞 原田 芳君

渡 辺 義 介 賞

渡辺義介記念賞

{ 河西 健一君
実松 竹二君

木村 重郎君

豊田 茂君

藤田 輝夫君

浅田 長平君

内山 辰丙君

榎淵 隆君

{ 鈴木登能弥君
朝熊 利彦君

那須 重治君

矢野 巖君

加藤 健君

{ 北村外喜男君
太宰 三郎君

竹入 佑君

中村 政吉君

渡辺 省三君

10. 鉄鋼標準試料の分譲

従来に引続き鉄鋼標準試料の分譲を行なっているが、需要増加のため品切を生じ、分譲に支障を来したので鉄鋼標準試料委員会において対策を研究、製造依頼先の増加、分析の促進などに努力したので、その後製造分析ともに着々進行し、22種の試料を整備、分譲の求めに応じ得ることとなり、本年度における分譲数436本に達した。現在八幡製鉄、富士製鉄、日本鋼管、住友金属工業、日立金属工業の5社は試料の製造を分担し、また東京大学、名古屋大学、東北大学金属材料研究所、理化学研究所および八幡製鉄、富士製鉄、日本鋼管、住友金属工業、日本製鋼所、日本特殊鋼、日立金属工業各社の研究機関は試料の分析を担当し、この事業に多大の協力援助を与えている。

11. 対外関係

1. 英文 Tetsu-to-Hagané Abstracts No.7(1957)および No.8(1958)を発行し、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、ポーランド、スペイン、ノルウェー、カナダ、インド、インドネシアその他の海外諸国の鉄鋼関係学協会、大学図書館、研究所、会社、商社などに寄贈し、技術の紹介交流に資した。なお Abstracts No.9(1959)は目下刊行準備中。

2. 他の6学協会と共同で Japan Science Review Mining and Metallurgy Vol 2, No.2 を編集刊行して広く海外に送った。

3. 米、英、仏、独、インド、インドネシアその他の諸国の鉄鋼会社その他の諸団体と引続き会誌その他の印刷物の交換をした。

4. Abstracts 所載論文の原文翻訳の依頼などを初め取引の紹介その他の照会斡旋多きを加えたが、これらに対しそれぞれ回答を發し、彼我の意思疏通、技術の交流に資した。

5. さきに外国会員制度を設けたが、入会者漸次増加した。また書店を通じての会誌の海外頒布も増加した。

V. 八幡製鉄渡辺記念資金による事業

1. 懸賞論文の募集

「わが国の鉄鋼業に関する技術開発の方策」と題する論文を一般より募集して、6篇の応募論文を得、審査委員会において審査の結果、次の通り入賞を決定した。

2等(賞金3万円) 木下 亨君

3等(同 1万円) 元田 欽也君

(1等は該当者なし)

2. 記念講演会の開催

東北、北陸、東海、関西、中国四国の各支部においてそれぞれ渡辺記念講演会を開催した。

3. 海外出張者への調査委託

海外出張者に対し次の通り鉄鋼関係事項の調査を委託

し、その費用を本資金中より支出した。

- (1) 欧米諸国における鉄鋼分析の現状並びに鉄鋼標準試料の実際 東北大学教授 後藤 秀弘君
- (2) インドにおける鉄鋼製品の腐食事情とその対策 大阪大学教授 多賀谷正義君
- (3) 欧米諸国における鉄鋼の塑性加工研究の現状 東京工業大学教授 作井 誠太君

VI. 石原研究資金による事業

1. 鉄鋼技術共同研究会への運営費交付
運営費 40 万円を交付した。
2. 原子力研究委員会への研究費交付
研究費 20 万円を交付した。
3. 石原研究奨励金の交付
鉄鋼に関する研究の振興とその実用化を図るため、

本年度より研究奨励金交付の制度を設け、希望者を募つたが、これに対し候補研究数件の推薦があり、近く審査委員会を開いて選定の予定。

VII. 地 方 文 部

北海道支部、東北支部、北陸支部、東海支部、関西支部、中国四国支部、九州支部の各支部においても、それぞれ講習会、見学会、研究会、講演会などを開催した。

VIII. 官 庁 事 項

1. 昭和34年 5 月 8 日 昭和33年度事業報告、収支決算書、昭和34年度事業計画、収支予算書および第44回通常総会報告を文部大臣に提出した。
2. 昭和34年 8 月20日理事の登記変更および資産総額に関する登記変更申請を東京法務局日本橋出張所に提出登記を了した。

会 計 報 告

一 般 会 計 収 支 決 算

収 入		支 出	
費 目	金 額 (円)	費 目	金 額 (円)
前 年 度 繰 越	583,597	会 誌 費	7,313,859
維 持 会 員 費	10,482,043	印 刷 費	5,847,324
正 学 生 会 員 費	4,930,000	編 集 費	465,595
外 国 会 員 費	5,292,735	刊 行 物	1,417,373
入 会 費	149,315	アブストラクト	291,163
加 入 席 金	30,143	会 員 名 簿	572,188
大 会 参 加 費	79,850	鉄 鋼 技 術 講 座	42,809
講 習 会 出 席 費	535,367	鉄 鋼 便 覧	62,275
分 譲 収 入	0	俵 博 士 記 念 出 版 費	448,938
会 員 誌 名 簿 其 他	1,534,947	会 合 議 費	788,337
鉄 鋼 標 準 試 料	610,847	会 総 議 大 会	134,070
印 税 収 入	128,200	講 演 会 ・ 座 談 会	577,558
鋼 の 熱 処 理 法	795,900	研 究 調 査	47,870
鉄 鋼 製 造 法	130,000	支 部 補 助 金	28,839
熱 経 済 其 他	303,381	人 俸 給 及 び 手 当	180,000
広 告 収 入	237,758	旅 費 及 び 謝 礼	4,205,075
調 査 委 託 金	3,903,950	厚 生 費	3,319,425
利 収 入	0	退 職 積 立 金	229,850
雑 収 入	55,602	事 務 費	155,800
	56,118	借 入 金	500,000
		筆 紙 墨 及 通 信 費	2,038,265
		交 通 費 ・ 其 他	572,100
		図 書 及 什 器 費	594,543
		鉄 鋼 試 料 諸 費	481,090
		振 替 貯 金 手 数 料	28,820
		会 員 団 体 報 償 費	105,840
		雑 費	112,541
		会 館 資 金 積 立 金	143,331
		次 年 度 繰 越	1,500,000
合 計	17,822,763	合 計	379,854
			17,822,763

別 途 会 計 収 支 決 算

資 金 別	収 入		支 出	
	費 目	金 額 (円)	費 目	金 額 (円)
表彰並びに事業資金	前年度繰越 本年度繰上 エーハー博士 招請費 第一回世界冶金 会議剰余金寄附 野田文庫書棚売却代	298,198 95,993 96,368 55,000 7,037 43,800	表 彰 費	298,198 106,044
八幡製鉄渡辺記念資金	前年度繰越 本年度繰上	2,077,141 1,264,173 812,968	次年度繰越 表彰費 記念講演会開催費 海外事情委託調査費 懸賞論文費 次年度繰越	2,077,141 192,154 388,060 100,000 400,000 48,790 1,140,291
石原研究資金	前年度繰越 本年度繰上	1,214,189 456,455 757,734	鉄鋼技術共同研究会 運営費 原子力研究委員会 研究費 次年度繰越	1,214,189 400,000 191,006 623,183
基 本 金	前年度繰越 本年度繰上	1,122,774 1,043,084 79,690	次年度繰越	1,122,774
職員退職資金積立金	前年度繰越 本年度繰上	1,981,757 1,374,362 107,395 500,000	次年度繰越	1,981,757
会館資金積立金	前年度繰越 本年度繰上	4,475,569 2,785,745 189,824 1,500,000	次年度繰越	4,475,569

財 産 目 録

昭和35年2月29日現在

別途資金財産目録明細

項 目	金 額 (円)	項 目	金 額 (円)
(資産之部)		表彰ならびに事業資金	1,398,154
什 器	720,000	三井信託銀行信託預金	500,000
電 話	49,800	三菱信託銀行	300,000
図 書	35,000	安田信託銀行	200,000
借 室 敷 金	153,000	住友信託銀行	200,000
電 話 債 券	60,000	三 菱 銀 行 普 通 預 金	192,154
分 譲 印 刷 物	120,000	野 田 文 庫 図 書 器	4,000
鉄 鋼 標 準 試 料	5,500	同 什 器	2,000
三菱銀行普通預金	105,246	八幡製鉄渡辺記念資金	11,140,291
日本勧業銀行	136,259	三井信託銀行信託預金	2,500,000
東海銀行	60,546	三菱信託銀行	2,500,000
振替貯金	70,269	安田信託銀行	2,500,000
現 金	7,534	住友信託銀行	2,500,000
合 計	1,523,154	勸業銀行普通預金	1,140,291
		石原研究資金	10,623,183
		大和銀行信託預金	10,000,000
		大和銀行普通預金	623,183
別途資金財産	30,741,728	基 本 金	1,122,774
		三井信託銀行信託預金	1,122,774
		職員退職資金積立金	1,981,757
		安田信託銀行信託預金	1,981,757
		会館資金積立金	4,475,569
合 計	32,264,882	三菱信託銀行信託預金	4,475,569